

坂井好郎教授定年退職記念号にあたって

経済学部長 梅 垣 邦 胤

坂井好郎先生は、平成 16 年 3 月をもちまして、本学を定年によりご退職されることになりました。先生は、昭和 6 年 8 月に岐阜県で生を享けられました。濃尾平野の北の端の、沢蟹、きのこ、マツタケなど自然が豊かなところで育ったとおっしゃっています。26 年 4 月に京都大学経済学部に入學され、30 年 3 月にご卒業になり、同年 4 月に京都大学大学院経済学研究科に入學され、38 年 3 月に京都大学大学院経済学研究科博士課程を満期退學されました。同年 4 月に本学法商学部講師として着任されました。以後、41 年間にわたり本学の研究教育の発展に寄与されました。この間、ご著作としましては、単著では『日本地主制史研究序説』（御茶の水書房、1978 年）を出版されました。この著作は岐阜県の名望家 T 家が所蔵した資料に出会われ、その分析結果が凝縮されているもので、490 ページにもなる大著です。本書に関して先生ご自身次のようにまとめておられます。T 家の「土地の大量処分は没落によるものではなくて、土地に固定されている資金を引き上げて、株式に投資先を転換するという積極的な経営行動だったのである。……。小著の研究史に対する寄与は、東北型・養蚕型に対比して研究の立ち遅れがいちじるしかった近畿型地主について、一事例を提示したことにあるとあってよいであろう」とされ、一橋大学の森武磨教授から「70 年代以降の個別地主経営分析の代表的著作の一つ」と高く評価された経緯を記しておられます（『思い出すままに』『名城大学 経済・経営学会会報 No. 14』2003 年 11 月）。続いては『地域産業構造の展開と小作訴訟』（御茶の水書房、1998 年）を出版されました。いずれも、岐阜県における地主経済に関する緻密な実態調査と資料探索に基づく、水準の高い研究書であり、引証しましたとおり、学会の評価も高いものであります。共著としては『現代農業問題入門』（有斐閣、1963 年）、『現代農業と小作問題』（有斐閣、1972 年）を出されています。これらの優れたご研究により、55 年には名古屋大学から経済学博士号を受けておられます。

学園祭ではゼミナール生が先生のお名前を冠した模擬店を開き、学生の先生に対する信頼の厚さが感じ取られます。平成 15 年度には、経済学部第 2 回ゼミナールフェスティバルにおきまして「戦争の惨禍」というテーマで、ゼミナール生が、「南京事件とその背景」「従軍慰安婦」「特攻隊 被爆者問題について」という 3 グループで報告し、学生の投票により第 2 位に選ばれています。日本にとっての戦争体験を記憶に残す貴重な試みといえるでしょう。サークル関係では、管弦楽団初代部長をつとめられました。

大学行政に関しましては、2 度にわたり、協議員として本学の運営の一翼を担われました。

先生は、清楚な方という印象をもちます。しかしその中に、正眼に構える古武士のような厳しさを感じることもあります。モーツァルト、ベートーベン、メンデルスゾーン、ブラームスなどのクラシックを好まれ、またリュックとカメラを持ち、散策され野生の花の写真を撮られるなど幅広く活動されておられ、特に花のお写真は、資料室を飾り、われわれの眼を楽しませていただきました。

長期にわたり、本学の発展のためにご努力いただいていたこと、まことに有難うございました。